

# 愛知県若年性認知症実態調査の調査結果について

## 1 調査の目的

若年性認知症の方の支援ケースの積み上げや、就労・社会参加支援モデル等の開発を目指し、若年性認知症の方及びご家族の生活の実態や課題等について把握するため。

### ※若年性認知症の定義

本調査では、調査対象とする若年性認知症を以下のように定義する。調査対象は、下記の(1)～(3)を全て満たす人とする。

(1) 愛知県在住の者

(2) 認知症である

※認知症の定義は、以下の①～③を全て満たすものとする。

① 記憶力の低下、または、その他の認知機能障害がある。(DSM5によって定義される神経認知領域(複雑性注意、実行機能、学習と記憶言語、知覚-運動、社会的認知)の障害を想定)

② 以前と比べて、仕事、家事、金銭の管理、身辺整理・対人関係などの日常生活や、社会生活などが困難になり、家族などの援助が必要である。

③ 知的障害、自閉症などではない。

(3) 調査基準日(2020年4月1日)における年齢が満18歳以上65歳未満である。

※調査基準日の年齢が65歳以上であっても、認知症の発症時期が65歳未満であることが確認できる場合には、調査対象に含めている。

## 2 調査対象及び方法等

一次調査と二次調査の2段階方式で調査を実施。

### (1) 一次調査(調査期間:2020年3月27日～5月11日)

認知症の方の利用が見込まれる医療機関・介護保険施設等(4,732箇所)を対象に、利用者における若年性認知症の方の有無をスクリーニングするため、郵送配布・郵送回収によるアンケート調査を実施。

### (2) 二次調査(調査期間:2020年6月8日～8月31日)

一次調査で把握できた若年性認知症の方(1,000人)を対象に、生活実態を把握するため、ご本人が利用している施設からの手渡し配布・郵送回収によるアンケート調査を実施。

なお、ご本人・ご家族に調査票が渡せない場合は、ご本人が利用している施設担当者がご本人の状況等を回答。

## 3 回収結果

### (1) 一次調査

57.2% (2,705箇所)

### (2) 二次調査

51.7% (517人)

ご本人・ご家族からの回答:190人  
関係施設(担当者)からの回答:327人

## 4 調査結果

### (1) 一次調査

- 対象事業所からの回収率は 57.2% であり、把握できた若年性認知症の方は 1,000 人であった。また、当該 1,000 人の発症時点の年齢階層は、「50 歳～59 歳」が最も多く (46.4%)、「60 歳～64 歳」(29.2%) がこれに続いた。

	対象事業所数	回答事業所数	回収率	若年性認知症の人数
医療機関(神経内科・心療内科・精神科・神経科・内科等)	618	272	44.0%	279
介護保険施設(居宅介護支援事業所・介護老人福祉施設等)	3,130	1,836	58.7%	597
障害者就労関係施設(就労継続支援事業所(A型・B型))	755	442	58.5%	43
地域包括支援センター	229	155	67.7%	81
計	4,732	2,705	57.2%	1,000

### (発症時点の年齢階層別若年性認知症の人数)

年齢	男性(人)	女性(人)	性別不明(人)	人数	構成割合
18 歳～29 歳	2	4		6	0.6%
30 歳～39 歳	5	7		12	1.2%
40 歳～49 歳	45	46		91	9.1%
50 歳～59 歳	221	239	4	464	46.4%
60 歳～64 歳	142	148	2	292	29.2%
無回答	75	60		135	13.5%
計	490	504	6	1,000	100.0%

### (2) 二次調査

- 一次調査により把握できた 1,000 人に対して二次調査を行った結果、ご本人・ご家族からの回収率は 19.0% (190 人)、ご本人・ご家族に調査票を渡せない場合の関係施設担当者からの回収率は 32.7% (327 人) であった。

	発送数	有効回答	回収率
ご本人・ご家族からの回答	1,000	190	19.0%
関係施設(担当者)からの回答		327	32.7%
	1,000	517	51.7%

#### ① 若年性認知症(調査時 65 歳未満)の基礎疾患の内訳(N=517)

- 基礎疾患の内訳は、「アルツハイマー型認知症」が最も多く (56.1%)、「血管性認知症」(14.1%) がこれに続いた。

	ご本人・ご家族回答(人)	施設担当者回答(人)	人数	構成割合
アルツハイマー型認知症	109	181	290	56.1%
血管性認知症	21	52	73	14.1%
レビー小体型認知症	8	16	24	4.6%
前頭側頭型認知症	19	17	36	7.0%
アルコール関連認知症	0	7	7	1.4%
頭部外傷後遺症	0	6	6	1.2%
その他	19	34	53	10.3%
聞いていない・わからない・無回答	14	14	28	5.4%
計	190	327	517	100.0%

## ② 最初に気づいた症状（重複可）（N=190）

- 最初に気づいた症状は、「もの忘れ」が最も多く（63.7%）、「職場や家事などでのミス」（37.9%）「何事にもやる気がなくなった」（17.4%）がこれに続いた。

	ご本人・ご家族回答(人)	構成割合
もの忘れが多くなった	121	63.7%
職場や家事などでミスが多くなった	72	37.9%
何事にもやる気がなくなった	33	17.4%
言葉がうまく出なくなった	30	15.8%
怒りっぽくなった	30	15.8%
上記以外の、今までにない行動・態度が出るようになった	33	17.4%
無回答	9	4.7%
その他（うつ症状、道が分からなくなった、料理ができなくなった、何度も同じことを聞く、思い込みが激しくなった等）	60	31.6%
	190	100.0%

## ③ 介護保険の申請状況（N=517）

- 介護保険の申請状況は、「申請した」が大多数であり（78.9%）、「申請していない」は（15.3%）であった。

	ご本人・ご家族回答(人)	施設担当者回答(人)	人数	構成割合
申請していない	20	59	79	15.3%
申請中	0	4	4	0.8%
分からない	0	18	18	3.5%
申請した	170	238	408	78.9%
無回答	0	8	8	1.5%
計	190	327	517	100.0%

## ④ 介護保険を申請していない理由（重複可）（N=20：③介護保険の申請状況「申請していない」と回答）

- 介護保険を申請していない主な理由は、「必要を感じない」（30.0%）、「利用したいサービスがない」（15.0%）、「家族がいるから大丈夫」（15.0%）、「サービスについて知らない」（10.0%）、「経済的負担が大きい」（10.0%）であった。

	ご本人・ご家族回答(人)	構成割合
必要を感じない	6	30.0%
利用したいサービスがない	3	15.0%
家族がいるから大丈夫	3	15.0%
サービスについて知らない	2	10.0%
経済的負担が大きい	2	10.0%
家族や親族が反対	0	0%
周囲の目が気になる	0	0%
その他（障害サービスを利用、もう少し進行したら申請する、本人の反対）等	9	45.0%
無回答	2	10.0%
	20	100.0%

⑤ 発症時点での就業状況 (N=517)

➤ 約4割が発症時点で就業していた。

	ご本人・ご家族回答(人)	施設担当者回答(人)	人数	構成割合
就業していた	106	126	232	44.9%
就業していない	80	177	257	49.7%
無回答	4	24	28	5.4%
計	190	327	517	100.0%

⑥ ご本人が若年性認知症になってからの世帯の収入状況 (N=190)

➤ ご本人が認知症になってから、若年性認知症の人の世帯では半数以上(56.3%)が収入は減ったと感じていた。

	ご本人・ご家族回答(人)	構成割合
変わらない	47	24.7%
減った	107	56.3%
増えた	4	2.1%
わからない	29	15.3%
無回答	3	1.6%
計	190	100.0%

⑦ ご本人を含む世帯の主な収入源(重複可) (N=190)

➤ 主な収入源は、「ご家族の収入」が約5割(47.9%)、ご本人の年金等が約4割(44.2%)であり、生活保護は1割未満(5.3%)であった。

	ご本人・ご家族回答(人)	構成割合
ご家族の収入	91	47.9%
ご本人の年金	84	44.2%
ご本人の障害年金等	68	35.8%
その他の収入	21	11.1%
ご本人の収入(傷病手当金等を含む)	16	8.4%
生活保護費	10	5.3%
わからない	4	2.1%
無回答	3	1.6%
	190	100.0%

⑧ 受診してから診断されるまでの期間 (N=517)

➤ 受診してから診断されるまでの期間は、「1ヶ月未満」が最も多く(56.2%)、「1~3ヶ月未満」(20.5%)がこれに続いた。(割合は「無回答」254人分を除いて算出)

	ご本人・ご家族回答(人)	施設担当者回答(人)	人数	構成割合
1ヶ月未満	56	92	148	56.2%
1~3ヶ月未満	36	18	54	20.5%
3~6ヶ月未満	9	3	12	4.6%
6ヶ月~1年未満	12	10	22	8.4%
1~2年未満	12	3	15	5.7%
2年以上	7	5	12	4.6%
計	132	131	263	100.0%

⑨ 診断されてから相談窓口を利用するまでの期間 (N=190)

- 診断されてから相談窓口を利用するまでの期間は、「1ヶ月未満」が最も多く(34.0%)、「2年以上」(18.9%)がこれに続いた。(割合は「無回答」137人分を除いて算出)

	ご本人・ご家族回答(人)	構成割合
1ヶ月未満	18	34.0%
1～3ヶ月未満	9	17.0%
3～6ヶ月未満	6	11.3%
6ヶ月～1年未満	4	7.5%
1～2年未満	6	11.3%
2年以上	10	18.9%
計	53	100.0%

⑩ 将来の不安 (N=190)

- 「『気分が不安定、あるいは意味もなく不安になる』と思う」と回答した方が約7割(72.6%)いた。

	ご本人・ご家族回答(人)	構成割合
『気分が不安定、あるいは意味もなく不安になる』と思う	138	72.6%
『気分が不安定、あるいは意味もなく不安になる』と思わない	37	19.5%
無回答	15	7.9%
計	190	100.0%

⑪ 社会との繋がりの薄さ (N=190)

- 「『社会参加の場所が少なく、社会とのつながりが薄い』と思う」と回答した方が半数以上(54.8%)いた。

	ご本人・ご家族回答(人)	構成割合
『社会参加の場所が少なく、社会とのつながりが薄い』と思う	104	54.8%
『社会参加の場所が少なく、社会とのつながりが薄い』と思わない	70	36.8%
無回答	16	8.4%
計	190	100.0%

⑫ 必要な通いの場の種類 (N=220 (517人のうち調査時点で65歳未満の方220人))

- 「外出や趣味活動を楽しめる通いの場」と回答した方が最も多く(62.3%)、「軽作業など就労に近い内容の通いの場」(19.1%)がこれに続いた。

	ご本人・ご家族回答(人)	施設担当者回答(人)	人数	構成割合
外出や趣味活動を楽しめる通いの場	54	83	137	62.3%
軽作業に取り組むなど就労に近い内容の通いの場	21	21	42	19.1%
就労支援を受けられる通いの場	14	18	32	14.5%
ボランティアなどの地域活動に取り組む通いの場	5	4	9	4.1%
計	94	126	220	100.0%

⑬ 若年性認知症の方への対応や支援に関する主なご意見・ご要望（自由記載）

「ご本人・ご家族」

- 見た目では分からないので、他人に理解してもらうのは難しい。
- 病院で相談できる場所はどのような所があるのか情報をいただけると良い。
- 本人に合った仕事や社会との関わり、少しでも外に出て人と関わりたい。
- 体力を活かせる作業の場が欲しい。

「施設担当者」

- 発症の初期からの対応が重要。
- 病院で適切な機関や窓口で紹介できると良い。
- 若年性認知症の方が活躍できる場所、社会参加できる場の提供が必要。
- 就労のできる通いの場はまだまだ少なく、その方の得意なこと、できることが行える就労先が増えると良い。
- 社会との交流、仕事を持つなど参加でき、生活の改善や進行を遅らせることに繋げられる支援ができれば良い。